

Contents



©えくてびあん

館長 渡部 泰明

国文学研究資料館について	4
データ駆動による課題解決型人文学の創成 —データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—	6
共同研究	10
古典籍データ駆動研究センター	14
基盤データセンター	16
国書データベース	18
公開データベース	19
基幹事業センター	20
若手研究者支援	28
大学院教育	29
教員一覧	30
参考データ	32
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	34



ようこそ、国文学研究資料館へいらっしゃいました。
私がお案内いたしましょう。館長の渡部泰明です。



Q まず聞きましょう。今一番力をいれていることは何ですか？

A 「データ駆動による課題解決型人文学の創成—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—」という事業を推進しています。2024年度から、10年間の計画で開始しました。「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(2014～2023年度)の最大の成果、古典籍30万点の画像データをどう利活用するか、という事業です。

[6 ページへ](#)



Q 何を目指していますか？

A 古典籍の膨大なデータを、領域の垣根を超えて活用することで、新しい人文学研究を開拓することを目指しています。データベース運用等を基幹事業センター、データの拡充・高度化等を基盤データセンター、研究等を古典籍データ駆動研究センターがそれぞれ担い、本事業を進めています。

[古典籍データ駆動研究センター 14 ページへ](#)

[基盤データセンター 16 ページへ](#)

[基幹事業センター 20 ページへ](#)





Q これまでの活動とのつながりは？

A 創立以来 53 年、日本文学関連領域の研究の基礎となる情報を集積し整備してきました。そのデータ基盤をさらに拡充・高度化していきます。

16 ページへ



Q これが成果だ、といえるのは？

A 国書データベースです。現在わかっているあらゆる日本の古典籍の情報・画像を、簡便に検索できます。そのほかにも諸種のデータベースを公開していますので、ぜひご利用ください。

18・19 ページへ



Q 研究者コミュニティとの連携はどう図っていますか？

A 館外の研究者にも中核を担ってもらい、積極的に共同研究を展開しています。研究機関であり大学共同利用機関である公的な組織としての生命線だと思っています。

10 ページへ



Q 国文学研究資料館の基幹事業について教えてください。

A 主として、1 調査・アーカイブズ調査収集、2 資料利用、3 社会連携活動、4 国際連携の四つの事業に分けられます。

20～27 ページへ



Q 若手研究者の支援は考えていますか？

A 日本古典文学学術賞の運営や、国際日本文学研究集会の開催など、若手支援にも積極的に取り組んでいます。

28 ページへ



Q 大学院教育を行っているのですか？

A 総合研究大学院大学の基盤機関となって、日本文学研究コースを開設しています。各領域の教授陣、文献・史料の豊富さは、大きな特色となっています。

29 ページへ



国文学研究資料館のめざすもの

当館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来50年以上にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

沿革

- 1972年 5月 国文学研究資料館創設(管理部、文献資料部、研究情報部)
文部省史料館(1951年設置)が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 1977年 6月 開館式挙行
- 7月 閲覧サービスを開始
- 1987年 4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービスを開始
- 1992年 4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービスを開始
- 2002年11月 創立30周年記念式典挙行
- 2003年 4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 2004年 4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる
法人化に伴い、館内組織を改組
- 2008年 3月 立川市緑町の現在地に移転
- 2013年 4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 2014年 4月 **大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」**を開始
古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組
- 2019年 2月 多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」設立
- 2020年11月 日本古典籍研究国際コンソーシアム設立
- 2022年 4月 古典籍データ駆動研究センター設置
- 2022年 5月 創立50周年記念式典挙行
- 2024年 4月 **大規模学術フロンティア促進事業「データ駆動による課題解決型人文学の創成—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—」**を開始
プロジェクト推進室及び基盤データセンターを設置し、情報事業センターを基幹事業センターに改組

施設について

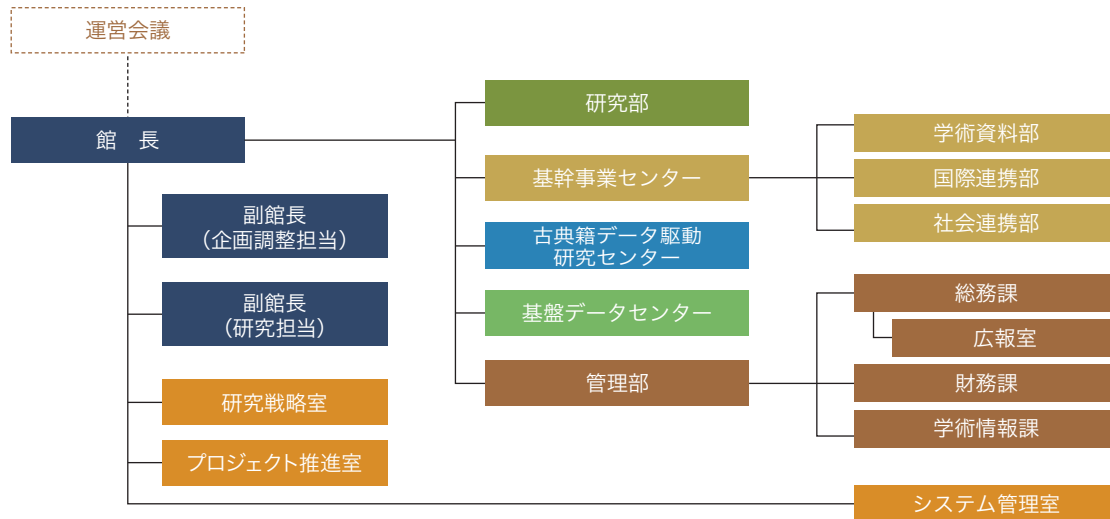
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、1989年8月及び1993年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、2008年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計としています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書すべて開架にしており、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍によるさまざまな展示等を行います。



組織図



運営会議

館外委員

猪狩 友一	白百合女子大学学長、国語国文学科教授
金光 桂子	京都大学大学院文学研究科教授
北本 朝展	情報・システム研究機構国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系教授
黒田 智	早稲田大学社会科学総合学術院教授
佐藤 至子	東京大学大学院人文社会系研究科教授
ジョナサン ズウィッカー	カリフォルニア大学バークレー校教授
鈴木 淳	東京大学大学院人文社会系研究科教授
鈴木 宏子	千葉大学名誉教授
田淵句美子	早稲田大学教育・総合科学学術院教授、 早稲田大学図書館副館長
遠山 敦子	公益財団法人トヨタ財団顧問
福田 安典	日本女子大学文学部教授
八木 敏郎	多摩信用金庫会長

館内委員

入口 敦志	副館長(企画調整担当)
岡崎真紀子	副館長(研究担当)
大山 敬三	研究部特任教授
木越 俊介	研究部教授(研究主幹・館長補佐)
ダヴァン ディディエ	研究部教授(研究主幹)
中西 智子	研究部教授(研究主幹)
西村慎太郎	研究部教授(研究主幹)
山本 和明	研究部教授(研究主幹)

役職員

館長	渡部 泰明
副館長(企画調整担当)	入口 敦志
副館長(研究担当)	岡崎真紀子

研究部

研究主幹	木越 俊介
研究主幹	ダヴァン ディディエ
研究主幹	中西 智子
研究主幹	西村慎太郎
研究主幹	山本 和明

基幹事業センター

センター長(併任)	入口 敦志
学術資料部長(併任)	木越 俊介
国際連携部長(併任)	ダヴァン ディディエ
社会連携部長(併任)	中西 智子

古典籍データ駆動研究センター

センター長(併任)	大山 敬三
-----------	-------

基盤データセンター

センター長(併任)	山本 和明
-----------	-------

システム管理室

室長(併任)	木越 俊介
--------	-------

総合研究大学院大学先端学術院

日本文学研究コース長	西村慎太郎
------------	-------

管理部

管理部長	秋庭 祥亜
総務課長	笠原 政宏
財務課長	内海 隆博
学術情報課長	武内八重子

文系唯一の大規模学術フロンティア促進事業* (文部科学省) として、2014年度から2023年度までの10か年で実施した「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(歴史的典籍NW事業)の成果をさらに発展させる後継事業「データ駆動による課題解決型人文学の創成—データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓—」(国文研DDHプロジェクト)を、2024年度から2033年度までの10年計画で実施しています。

本事業では、国内外機関等との連携による更なる画像データの拡充、画像データのAI利活用等によるテキストデータ化、データ分析技術開発の推進など、日本文学を中心とするデータインフラを構築し、さまざまな課題意識に基づく国内外・異分野の研究者との協働による大規模データを活用した次世代型人文学研究を開拓することを目指しています。

*大規模学術フロンティア促進事業とは？

文部科学省が推進する、最先端の技術や知識を結集して人類未到の研究課題に挑み世界の学術研究を先導する画期的な成果を挙げる大型プロジェクトです。

研究基盤データベースのデータ拡充・高度化

画像データの集積の範囲を近代初頭(明治時代初頭)にまで拡張するとともに、機械可読の大規模テキストデータを形成します(→16～17ページ)。

・画像データの拡充

歴史的典籍NW事業をとおり、30万点の日本語の歴史的典籍の全冊画像を作成し、国書データベース(→18ページ)において、Web上で誰でも、いつでも、無料で利用可能なオープンデータとして提供しています。本事業においては、さらに15万点の全冊画像を作成して合計45万点の画像の集積を行います。

・テキストデータの作成

国書データベースで公開している30万点の歴史的典籍の画像データを元に、OCRにより、機械可読な形のテキストデータを作成します。これにより、オンラインでの検索・表示システムの提供や機械学習モデルの作成などに利用できるようになります。また、TEI (Text Encoding Initiative) ガイドラインによる最小限のマークアップを施したテキストの作成や、一部テキストに関しては研究者による校正や既存の翻刻資料を通じて、より信頼度の高いテキストを提供します。

異分野融合によるデータ駆動型研究の推進

情報学、自然科学分野などとの協働によるデータ駆動型研究や基盤技術の高度化を以下の4つの研究計画により推進しています(→8～9ページ)。

- ・データインフラストラクチャの構築
- ・人文系データ分析技術の開発
- ・コンテンツ解析からの展開
- ・マテリアル分析・解析



情報発信等

本計画では、国内外でのシンポジウムやワークショップ等による共同研究の成果発信や国書データベースの利活用に繋がる発信に積極的に取り組んでいます。併せて、一般市民や中高生に向けたアウトリーチ活動を展開し、研究成果を広く還元します。

また、「日本古典籍研究国際コンソーシアム(→26ページ)」の活動として、複数機関の学生・研究者・専門職員と一緒に研究・勉強するオンライン勉強会を開催するなど、国際交流を強化しています。

国文研DDHプロジェクト国際研究集会

隣接分野や異分野も含めた研究者コミュニティに対して、「データ駆動による課題解決型人文学」という新しい人文学を紹介して興味関心を深めることを目的として、国文研DDHプロジェクト国際研究集会を開催しています。

国文研DDHプロジェクト第1回国際研究集会

「古典テキストの最前線—夢の書庫を開く—」

日時：2025年12月11日(木) 13:30～17:30

会場：国文研大会議室／オンライン同時配信

動画公開中 [https://youtu.be/KETViozbHQ0]



基調講演 黒橋 禎夫氏
(国立情報学研究所所長/京大大学特定教授)

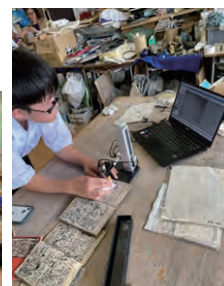


中高生向けSDGsイベント

共同研究「古典資料の継承意識の涵養手法に関する教育的実践研究」の一環として、紙漉きや、近世期和本の顕微鏡観察等を体験するワークショップを開催しています。

[2025年度実施]

- ・お茶の水女子大学附属高等学校 (2025年7月1日)
※特定授業履修生必修講座
- ・芝高等学校 (2025年7月30日)
- ・実践女子学園中学校高等学校 (2025年8月27日)
- ・海城高等学校 (2025年9月24日・10月1日)
- ・麹町学園女子中学校・高等学校 (2025年12月6日)

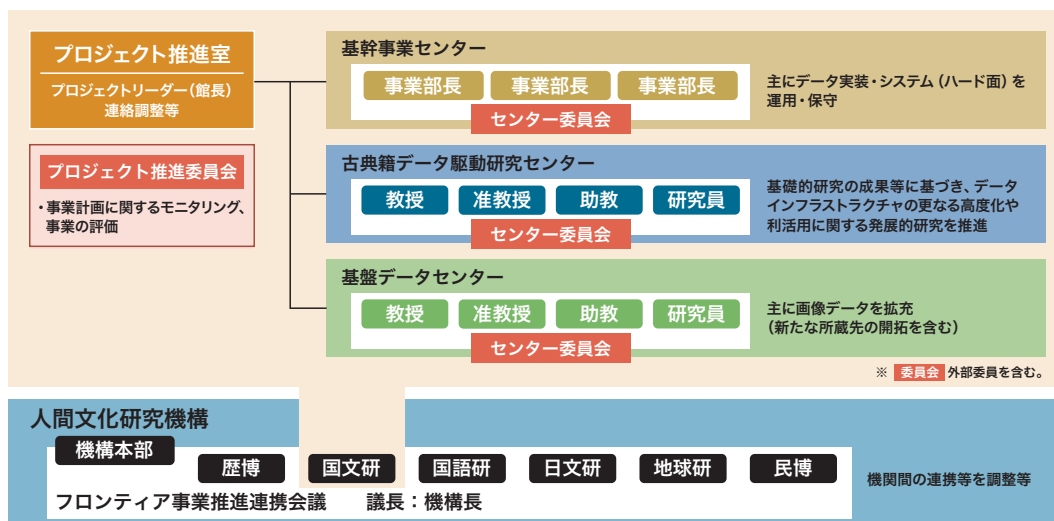


講義を受ける様子/紙料を小型顕微鏡で観察する参加者
※過年度の様子

実施体制

本計画は、「プロジェクト推進室」において本計画の統括、各部署の連絡調整及び機構本部との連携等を行い、「基幹事業センター」、「古典籍データ駆動研究センター」及び「基盤データセンター」がそれぞれの強みを活かしてプロジェクトを推進しています。

また、外部委員を含む委員会において、研究者コミュニティの意見をプロジェクトに反映する仕組みとしています。



異分野融合：4つの研究テーマ

大量の古典籍の電子化・テキスト化による一般への開放、及びデータの構造化・体系化と利活用を目指して、「データインフラストラクチャの構築」、「人文系データ分析技術の開発」、「コンテンツ解析からの展開」、「マテリアル分析・解析」の4つの研究領域において共同研究を推進します。

データインフラストラクチャの構築

本計画の基盤となるデータ駆動システムのハード面・ソフト面にわたる開発と運用計画の調整を行い、実際の運用を行います。

また、古典籍のOCR技術の高度化や、画像検索機能の開発などに関する共同研究を実施しています。

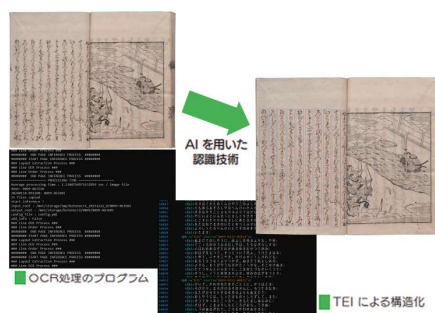
国書データベース

日本の古典籍の総合目録である「日本古典籍総合目録データベース」と「歴史的典籍NW事業」によって構築された「新日本古典籍総合データベース」を発展的に統合し、さらに、校正テキストデータの構築・公開や、タグ検索などの機能強化を目指すものです。(→18ページ)



人文系データ分析技術の開発

AI技術の活用による研究資料の抽出とその多分野への適応、テキスト分析・解析技術及び画像等の非テキストによる検索技術の開発、データ蓄積の国際標準化への対応などにより、人文系データをデータ駆動型に統合する方法と分析手法の開発を行います。

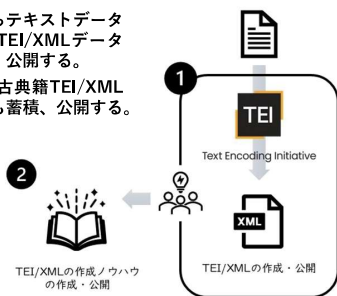


古典籍画像の機械可読型データへの整備

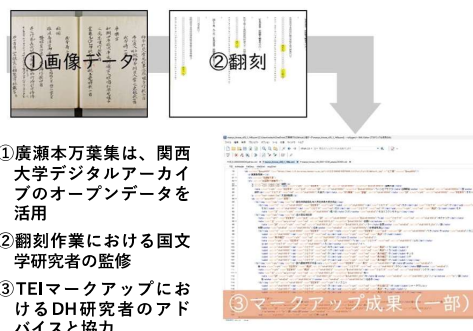
古典籍画像データから作成したテキストデータを扱いやすい形式に変換する共同研究を行うとともに、そのノウハウも公開しています。多様な人々がデータ作成を担い、研究資源が増すことで、異分野の研究者等にも人文情報が容易に利用できるようになります。

プロジェクトの目的

- ① 古典籍画像データからテキストデータを作成し、これらをTEI/XMLデータ作成ノウハウも蓄積、公開する。
- ② 研究活動を通じて、古典籍TEI/XMLデータ作成ノウハウも蓄積、公開する。



TEI/XMLマークアップの流れ



引用：国文研DDHプロジェクトキックオフシンポジウム「AI×人文学ーデータ駆動による未来形成ー」ポスター発表「古典籍画像データを利用したTEI/XMLデータ作成ー廣瀬本万葉集を中心にー」 菊池信彦（国文学研究資料館）（2024.12.1）

コンテンツ解析からの展開

従来、人文科学分野で活用されてきたエビデンスデータを自然科学・社会科学にも活用できるデータに改変し、現代社会の直面する課題を解決する共同研究を行います。

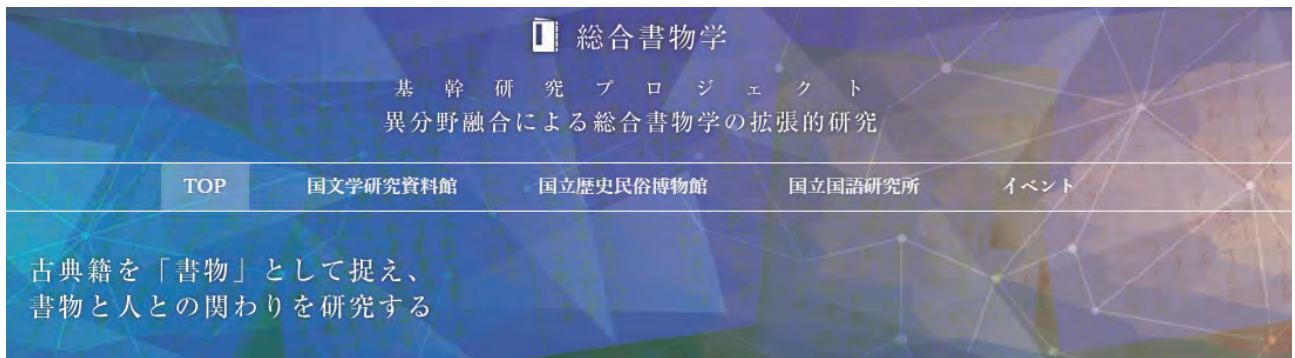


古代における赤気（オーロラ）、隕石、雷等の自然界に起こった多様な異変について、古典籍における記述をもとにした分析を進める共同研究「天変地異の文理融合研究」。国立極地研究所など大学等研究機関ほか、国立科学博物館、地域資料館、学会など幅広い分野・組織の研究者が参加。



大規模自然災害や気候変動に対して、古典籍・古記録・古文書等から歴史的な災害対応、適応の様相を明らかにし、将来への減災・気候変動対応に向けた異分野融合型研究を目指す「歴史資料・古典籍を活用した減災・気候変動研究」。茨城大学から環境経済学、地形学等の研究者が参加。

また、多様な人文学分野の拠点である人間文化研究機構内の各機関との協働により、機構のスケールメリットを活かし、大規模データを活用したさまざまな課題意識に基づく国内外研究者との異分野融合研究を実施しています。

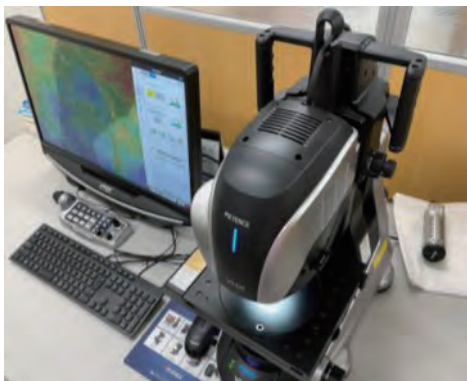


当館が主導機関となり、国立歴史民俗博物館・国立国語研究所や機構外の大学等研究機関とも連携して実施している広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」

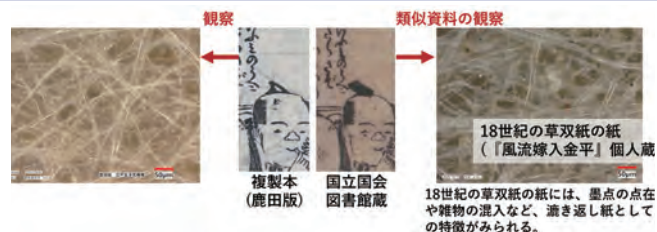
マテリアル分析・解析

1000年の歴史を有する日本の書物には、記されたテキストの伝える情報とともに物質として伝えられた情報も蓄積されています。従来ほとんど行われてこなかったマテリアルとしての書物からの情報抽出及び分析・解析技術の確立を目指します。

また、2024年度にはマテリアル分析共同利用実験室(→15ページ)を設置し、研究機器を共同利用に供し研究の推進を支援しています。



事例：国内外に所蔵される草双紙の中から複製本を判別



古くは漉き返し紙に印刷し、販売したという草双紙は刊行の時期ごとに標準的な紙質というものがあってと推定されることから判別が可能。18世紀半ばの初期草双紙においては墨や色の付いた紙片の漉き込みが目立つが、次第に簾の目の縞模様のある薄く灰色がかった紙へと変化していったと見込まれる。

引用：仏教学とデジタル・ヒューマンティーズ国際シンポジウム「DX-AI時代における人文学の意義と研究基盤の構築」ポスター発表「国文研DDHプロジェクトにおけるマテリアル分析・解析の意義」大和あすか 松原哲子(東京国際フォーラム+オンライン、2025年12月20-21日)
京傳作ほか『江戸生艶気権焼：3巻』、[萬屋重三郎]、[天明5(1785)]、国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/9892607> (参照2026-01-23)

マテリアル分析研究に使用する高精細デジタルマイクロscopeと、研究成果の一例

大規模な学術データや貴重な資料等の研究基盤を整備して国内外の研究者に広く提供することを通じて、大学等の枠を越えた先進的な共同研究を行っています。

当館研究部が運営する「共同研究(基幹研究・特定研究)」と、当館古典籍データ駆動研究センターが運営する異分野融合型の「国文研プロジェクト型共同研究」を推進するとともに、人間文化研究機構人間文化研究創発センターが運営する「基幹研究プロジェクト・共創先導プロジェクト」や、大学共同研究教育アライアンス(IU-REAL)が推進する「異分野融合・新分野創出プログラム」にも参画しています。

共同研究(基幹研究・特定研究)

50年余にわたる調査収集事業と、大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(2014～2023年度)、「データ駆動による課題解決型人文学の創成」(2024～2033年度)で集積した、日本文学とその関連領域の各種資料を主たる研究資源として、多様な日本文学研究のいっそうの推進と発展のために、以下の共同研究を実施しています。

■ 基幹研究

「基幹研究」は、日本文学とその関連領域の基礎基盤をなす共同研究です。館内教員が研究代表者を務めています。

- **国文学研究資料館所蔵貴重書の基礎的研究** (2022～2027年度)
研究代表者：齋藤 真麻理(さいとう・まおり) 当館教授
中西 智子(なかにし・さとこ) 当館教授
- **アーカイブズ社会の基盤創発に関する基礎的研究** (2022～2027年度)
研究代表者：太田 尚宏(おおた・なおひろ) 当館准教授
- **十九世紀地域文化拠点の総合的研究—廣瀬家の文事とネットワーク—** (2024～2027年度)
研究代表者：入口 敦志(いりぐち・あつし) 当館教授/副館長

■ 特定研究

「特定研究」は、個別特定の研究課題に取り組む共同研究です。

— 般 —

当館が集積してきた各種資料(古典籍・デジタルデータ・マイクロフィルム・紙焼写真など)を主たる研究資源として推進する公募型共同研究です。

- **一関藩田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究** (2024～2026年度)
研究代表者：大山 和哉(おおやま・かずや) 同志社大学准教授
- **短冊資料の研究資源化に向けたオープンデータ構築** (2025～2027年度)
研究代表者：岡田 貴憲(おかだ・たかのり) 九州大学准教授
- **鉄心斎文庫蔵伊勢物語注釈書・享受資料の基礎的研究** (2026～2028年度)
研究代表者：松本 大(まつもと・おおき) 関西大学教授

課題

当館が所蔵する特定のコレクション(寄託資料を含む)に関して、個別研究を行う研究分担者を公募し、個人々人がその交流をとおしてさまざまな知見を獲得するとともに、関係文献の解題作成と展示公開を研究成果の一つとする共同研究です。

- **国文学研究資料館北野克旧蔵書画の基礎的研究** (2024～2026年度)
研究代表者：合山 林太郎(ごうやま・りんたろう) 慶應義塾大学教授
- **国文学研究資料館鈴木圭一文庫の基礎的研究** (2025～2027年度)
研究代表者：長田 和也(ながた・かずや) 公益財団法人五島美術館大東急記念文庫学芸員
- **国文学研究資料館初雁文庫の総合的研究** (2026～2028年度)
研究代表者：浅田 徹(あさだ・とおる) お茶の水女子大学教授

近代

日本近代文学に関する共同研究です。館内教員が研究代表者を務めています。

- **近代文学における改稿と思想の相関についての文献学的研究** (2025～2027年度)
研究代表者：多田 蔵人(ただ・くらひと) 当館准教授

地域資料

全国にわたる当館の調査収集先の中から5か所を選定し、当該所蔵機関に精通した研究代表者が、調査収集事業を担ってきた各地域の地域資料専門部会委員(旧国文学文献資料調査員)を中心とする研究分担者を組織して行う共同研究です。研究資源の重要性を各地域でも共有していただくために、毎年度「○○文庫セミナー」を開催することを要件としています。

- **京都女子大学蘆庵文庫の研究** (2025～2027年度)
研究代表者：大谷 俊太(おおたに・しゅんた) 京都女子大学教授
- **春日大社の研究** (2025～2027年度)
研究代表者：川崎 佐知子(かわさき・さちこ) 立命館大学教授
- **手銭家蔵書についての研究** (2025～2027年度)
研究代表者：田中 則雄(たなか・のりお) 島根大学教授
- **正宗文庫の総合的研究** (2025～2027年度)
研究代表者：川崎 剛志(かわさき・つよし) 就実大学教授
- **肥前松平文庫の研究** (2025～2027年度)
研究代表者：鈴木 元(すずき・はじめ) 熊本県立大学教授

国際

在外古典籍の調査研究とともに、それに基づいた国際共同研究を進めます。館内教員が研究代表者を務めています。

- **カリフォルニア大学バークレー校所蔵古典籍の調査研究** (2025～2027年度)
研究代表者：神作 研一(かんさく・けんいち) 当館教授



最近の共同研究の活動と主な研究成果の一例

- 国文学研究資料館編『文体史零年 文例集が映す近代文学のスタイル』(文学通信、2025年3月)
※特定研究(近代)「近代文学における改稿と思想の相関についての文献学的研究」による研究成果。
- 第一回蘆庵文庫セミナー(2025年12月14日開催)
※特定研究(地域資料)「京都女子大学蘆庵文庫の研究」の活動

国文研プロジェクト型共同研究

古典籍データ駆動研究センターでは、日本文学以外の分野の研究者が参画して、研究基盤を用いた異分野融合共同研究を実施しています。萌芽研究(将来的な発展が期待される萌芽的な研究)、共同研究(成果の具体化が期待される研究)の区分を設定して実施しており、さらに2025年度から国文研DDHプロジェクトの重要事項を研究テーマとする重点課題研究を新たに開始しました。

■ 萌芽研究

- 中井履軒自筆資料における筆致と文体のマルチモーダル特徴抽出および適応型OCRの構築 (2026年度)
研究代表者: 吉賀 夏子(よしが・なつこ) 大阪大学准教授

■ 共同研究

- AI技術を用いた古典籍OCRテキストの解析・校正支援手法 (2024～2028年度)
研究代表者: 藤田 悟(ふじた・さとる) 法政大学教授・当館客員教授
- 地理情報付与による『源氏物語』の空間認知表現の分析と解明 (2025～2026年度)
研究代表者: 竹内 綾乃(たけうち・あやの) 当館特任助教
- 廣瀬本万葉集のTEI/XMLデータ作成とビューワの開発に関する発展的研究 (2026～2027年度)
研究代表者: 青山 英正(あおやま・ひでまさ) 東京大学大学院准教授
- 原文忠実性を制御可能な古典語機械翻訳の研究 (2026～2027年度)
研究代表者: 東山 翔平(ひがしやま・しょうへい) 情報通信研究機構研究員
- 人名データの構造解析と可視化による歴史ネットワーク研究 (2026～2027年度)
研究代表者: ベティーナ・グラムリヒ=オカ(べていーな・ぐらむりひ・おか) 上智大学教授
- 草双紙の色材から探る江戸出版文化 -古典籍における「マテリアル・エビデンス」の科学的指標構築 (2026～2027年度)
研究代表者: 津田 真弓(つだ・まゆみ) 慶應義塾大学教授

-
- カリフォルニア大学バークレー校所蔵古典籍の調査研究 (2025～2027年度)
研究代表者: 神作 研一(かんさく・けんいち) 当館教授 ※国文研共同研究(特定研究・国際)
 - 異分野融合による総合書物学の拡張的研究 (2022～2027年度)
研究代表者: 木越 俊介(きごし・しゅんすけ) 当館教授/館長補佐 ※人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト

■ 重点課題研究

【企画型】

- 古典籍と自然アーカイブの対比による天変地異の文理融合研究 (2026～2027年度)
研究代表者: 片岡 龍峰(かたおか・りゅうほう) 沖縄科学技術大学院大学主幹研究員
- 大規模データを活用した古典籍画像に対する内容解析と提示方法の開発 (2026～2027年度)
研究代表者: 寺沢 憲吾(てらさわ・けんご) 公立ほこだて未来大学准教授
- AI技術を用いた大規模古典籍画像の検索手法と検索結果の表現方法の研究 (2026～2027年度)
研究代表者: 佐藤 真一(さとう・しんいち) 国立情報学研究所教授
- 歴史資料・古典籍を活用した減災・気候変動研究 (2026～2027年度)
研究代表者: 田村 誠(たむら・まこと) 茨城大学教授
- 国書DB×OpenCHJ連携による古典籍テキスト資源の整備 (2026～2027年度)
研究代表者: 竹内 綾乃(たけうち・あやの) 当館特任助教
- データ基盤を活用した日本文学研究における新たな研究手法の開拓と教育活動への普及 (2026～2027年度)
研究代表者: 松原 哲子(まつばら・のりこ) 当館特任准教授

- **日本の歴史的字形・字体資料の利活用性向上に関する研究** (2026～2027年度)
研究代表者：馬場 基 (ばば・はじめ) 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
- **日本古典文化における人間・AI共創のためのデータインフラストラクチャ構築** (2026～2027年度)
研究代表者：北本 朝展 (きたもと・あさのぶ) 国立情報学研究所教授/データサイエンス共同利用基盤施設
人文学オープンデータ共同利用センター長
- **非破壊で見えない文字を読む文理融合研究** (2026～2027年度)
研究代表者：向川 康博 (むかいがわ・やすひろ) 奈良先端科学技術大学院大学教授
- **大英図書館所蔵資料の画像作成及びカタログニングにおけるアルゴリズム改良に関する発展的研究** (2026～2027年度)
研究代表者：大塚 靖代 (おおつか・やすよ) 大英図書館日本部司書
- **石水博物館所蔵資料の画像作成及びカタログニングにおけるアルゴリズム改良に関する発展的研究** (2026年度)
研究代表者：桐田 貴史 (きりた・たかし) 石水博物館学芸員
- **大規模言語モデル等を利用した近代文芸テキストデータ解析とデータセット構築の探究** (2026～2027年度)
研究代表者：日比 嘉高 (ひび・よしたか) 名古屋大学教授
- **新古今集本文・訳データのAI分析の的方法的研究** (2026～2027年度)
研究代表者：渡部 泰明 (わたなべ・やすあき) 当館館長
- **古典籍に対する科学的アプローチに関する総合的研究** (2026～2027年度)
研究代表者：浅野 祐太 (あさの・ゆうた) 国立情報学研究所助教

【公募型】

- **日本漢文 Universal Dependencies に向けた OCR・品詞付与・係り受け解析システムの統合的開発** (2025～2026年度)
研究代表者：安岡 孝一 (やすおか・こういち) 京都大学教授
- **くずし字認識 AI の改良による古典籍画像用 OCR の開発** (2025～2026年度)
研究代表者：早坂 太一 (はやさか・たいち) 豊田工業高等専門学校教授
- **生成 AI を用いたガイドによる対話的古典籍検索システム** (2025～2026年度)
研究代表者：鈴木 積規 (すずき・ときのり) 筑波大学助教
- **古典籍テキストの地名認識とそれを活用した古典籍検索システム** (2025～2026年度)
研究代表者：亀甲 博貴 (かめこう・ひろたか) 京都大学助教
- **テキストの構造度に応じたデータ集約と共有のためのワークフローとシステムの開発** (2025～2026年度)
研究代表者：永崎 研宣 (ながさき・きよのり) 慶應義塾大学教授
- **大規模言語モデルを用いた OCR 読み取り結果のエラー訂正と現代語への翻訳** (2025～2026年度)
研究代表者：古宮 嘉那子 (こみや・かなこ) 東京農工大学准教授
- **国書データベースとそのテキストデータを活用した教材作成と LOD の構築 - 学校での授業実践と国際連携を通して -** (2025～2026年度)
研究代表者：大井 将生 (おおい・まさお) 同志社大学准教授

人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト・共創先導プロジェクト / IU-REAL 異分野融合・新分野創出プログラム

当館では、以下のプロジェクトに参画しています。

■ 基幹研究プロジェクト

- データ駆動による課題解決型人文学の創成～データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓～ (→6ページ)
- 人口減少地域におけるアーカイブズと歴史文化の再構築 (→35ページ)
- 異分野融合による総合書物学の拡張的研究ネットワーク型 (→35ページ)

■ 共創先導プロジェクト

- 日本・バチカン関係アーカイブズの情報基盤構築に関する研究(国際連携促進事業) (→35ページ)

■ IU-REAL 異分野融合・新分野創出プログラム

- 古文書×AIで解き明かす歴史的な天体現象

「古典籍データ駆動研究センター」（略称「DDセンター」、2022年4月設置）は、加速する実体社会のデジタル化への対応やオープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進という新たな研究システムの構築等に取り組むため、人文学分野の研究者と情報学・自然科学分野の研究者との協働によって、他分野と協働し得る課題解決型の人文学研究の創出を目指しています。

DDセンターでは、「研究基盤整備部門」及び「データ駆動型研究推進部門」の2つの部門を設置し、「データインフラストラクチャの構築」、「人文系データ分析技術の開発」、「コンテンツ解析からの展開」、「マテリアル分析・解析」の4つの研究分野を推進しています。

データインフラストラクチャの構築	人文系データ分析技術の開発
<ul style="list-style-type: none"> ・古典籍のテキストデータ化のための技術開発 ・国書データベースの高度化・メタデータ標準化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの活用による大規模データの分析技術開発 ・TEIによるデータの構造化 等
コンテンツ解析からの展開	マテリアル分析・解析
<ul style="list-style-type: none"> ・社会や他分野に貢献可能なコンテンツの抽出 ・総合書物学や典籍防災学等の研究を推進 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・マテリアルとしての書物の分析・解析技術を開発 ・マテリアルデータのメタデータ化

国文研プロジェクト型共同研究

日本文学以外の分野の研究者が参画して、研究基盤を用いた異分野融合共同研究を実施しています。（→12～13ページ）

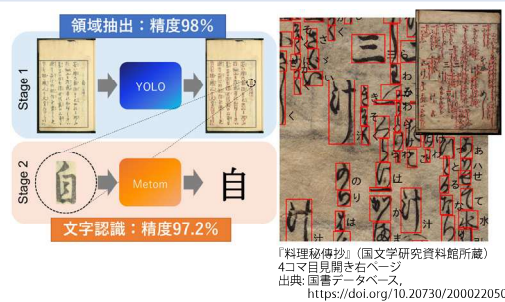
また、「重点課題研究」を中心として成果報告会を開催（国文研、2026年3月6日）するなど、各共同研究課題間の情報共有や、国文研DDHプロジェクトの事業へつなげるための取組を行っています。

区分	概要	
萌芽研究	将来的な発展が期待される萌芽的な共同研究	
共同研究	成果の具体化が期待される共同研究	
重点課題研究	国文研DDHプロジェクトの重要事項に関する共同研究	
	公募型	多分野の研究者を対象に公募する共同研究
	企画型	国文研DDHプロジェクト連携機関等と企画する共同研究

事例1：AI技術を用いた古典籍OCRテキストの解析・校正支援手法

研究代表者：藤田 悟（法政大学・教授）

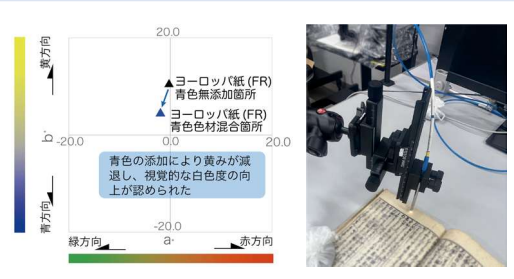
学習方法の工夫により、複雑なちらし書きの大小混在の文字を正しく認識して、認識の精度を向上させた。



事例2：江戸期における洋学受容の比較研究

一洋学和刊本に対する物質分析を通じて—
研究代表者：大和 あすか（国文研・特任助教）

紙への青色繊維・顔料の混入は、近世ヨーロッパでは紙の白色化を目的とした意図的処置である一方、日本では非意図的である可能性が高いことが示された。



若手・シニア研究者を交えたブリーフィング

DDセンターブリーフィング「データ駆動型人文学研究入門」を開催（国文研、2025年12月9日）しました。日本文学等の人文学研究者を対象に、データをどのように入手し、事前処理をして、分析・可視化をしていけばよいか、その一連の流れをレクチャーし、参加者全員で共有しました。



一人一人にレクチャーする様子

研究活動

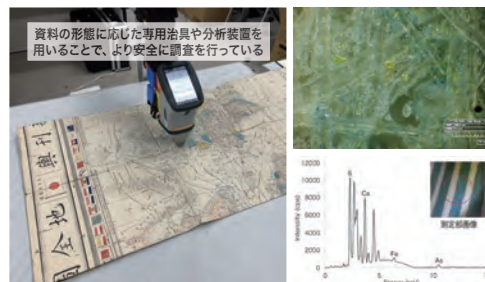
DDセンターが主体となって推進している研究活動事例を紹介します。

古典籍TEI/XMLデータの構築

「学校教育向け古典TEI/XMLマークアップ—中高での古典教育から大学での国文学研究への接続—」というプロジェクトのもとで、古典籍TEI/XMLデータの構築とそのデータ構築者の拡大、ならびに構築データの利活用の実践を、特に学校教育をターゲットに行っています。

マテリアル分析・解析

自然科学分野の研究機関との連携による人文学に適したマテリアル分析・解析技術の確立に向けた基盤的研究及びマテリアルを対象とした新たな分析手法を開発しています。



『新刊輿地全圖』（国文学研究資料館所蔵）
出典：国書データベース、
<https://doi.org/10.20730/200022080>

情報発信

研究データの公開

古典籍データ駆動研究センターのウェブサイトを通じて研究活動を発信するとともに、「『廣瀬本万葉集』のTEI/XMLデータ」や「嘉禄二年本『古今和歌集』の翻刻およびTEI/XMLデータ」等の研究資源を提供しています。

研究成果等の発信

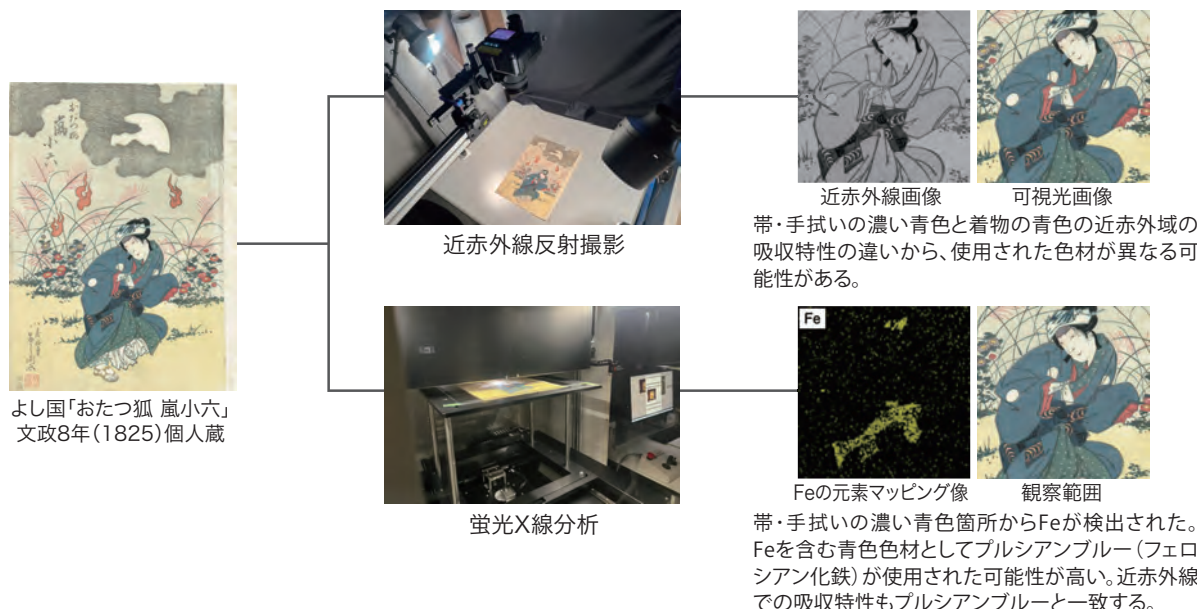
- ・2025年度中世文学会春季大会シンポジウム「古典とデータ駆動」／発表「繋がる古典籍データの残し方」（鶴見大学記念館・記念ホール、2025年5月31日）
- ・情報知識学会第33回（2025年度）年次大会シンポジウム「古今東西のデジタル・フィロロジーの世界」発表「データで再考する平安仮名文学」（筑波大学、2025年5月31日）
- ・PALA（詩学言語学会）Conference 2025/研究報告「A Corpus-Driven Approach to Stylistic Differences in Classical Japanese Literature -What Makes Stylistic Differences in Heian Kana Literature?」(英国・アストン大学、2025年7月12日)
- ・DH2025(国際学術会議「Digital Humanities Conference 2025」)／ポスター発表・研究報告「Towards the “Model Building in the Humanities through Data-Driven Problem Solving” based around the Japanese Literary Studies」（ポルトガル・ノヴァ大学、2025年7月16日）等

マテリアル分析共同利用実験室

DDセンターではマテリアル分析を人文学のデータ駆動型研究の新たな柱の一つに位置付け、「マテリアル分析共同利用実験室」を開設し、古典籍等の試料を非破壊で分析できる微小部蛍光X線分析装置や高精細デジタル顕微鏡などの光学機器を整備して人文学研究者の共同利用に供します。提供対象を共同研究から一般の共同利用へ、分析対象も古典籍からその他の人文学試料へと順次拡大していく予定です。



<https://www.nijl.ac.jp/outline/ddc/materiallabo/>
マテリアル分析共同利用実験室ウェブサイト



基盤データセンターは、国文研 DDH プロジェクトの推進にあたり、国書データベースから公開されるデータの拡充と高度化を担っています。

国内外の関係機関等と連携し、画像および書誌データの作成を行うとともに、機械可読の全文テキストデータの整備にも取り組んでいます。これらの取組を通じて、国書データベースの一層の充実を図るとともに、その国際化や利活用の促進を目指します。

当館における画像・書誌作成

● 画像

・ 業者撮影

専門業者を所蔵者のもとへ派遣して撮影を行うものです。

箱などの立体物を伴う場合や大型資料・卷子・掛け軸等、内製では対応できない資料も撮影することができます。



業者撮影の様子



職員による当館内製の様子

・ 内製

当館に所蔵資料を借用して、当館スタッフが設置スキャナにて撮影を行う**当館内製**と、所蔵者にスキャナを貸し出して現地スタッフで撮影を行う**機関内製**との2種類があります。

冊子体の撮影を中心とし、A2サイズ以内(機関内製ではA3サイズ以内)の一枚もの等も撮影しています。

内製では、カラープロファイルを設定するなどして、原資料の再現性を担保しつつ、業者撮影よりも比較的安価に画像を作成できます。



カラープロファイルが設定されていない場合



適切なカラープロファイルを設定した場合

・ その他

原本からの撮影が難しいがマイクロフィルムで撮影済みの場合には、フィルムからの**デジタルコンバート**を行っています。

海外の機関などの場合には、所蔵者自身が持つ撮影スタジオへの画像撮影の発注や、所蔵者自身が撮影業者に撮影を発注する費用の負担などの方法で画像を作成しています。

その他、所蔵者による画像データの提供やデータベースとの**IIIF連携**などを通じて、国書データベースでより多くの画像を公開するよう努めています。

● 書誌

・ 書誌作成

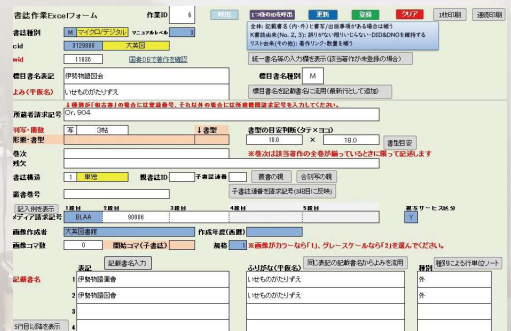
このように様々な方法で作成された画像に対し、くずし字が解読できる当館スタッフにより、データベースで検索・利用するために必要な「書名」「著者名」「所蔵者」などの様々な書誌データが整備されます。

その書誌データと、画像をリンクさせて国書データベース(→16ページ)で公開しています。

・ 書誌の標準化

「メタデータ流通ガイドライン(古典籍編)」や日本古典籍のデジタルアーカイブに対応した「JPCOARスキーマ2.0」の編纂に関わるなど、国立国会図書館・オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)とともに日本古典籍に関する書誌の標準化に尽力しています。

さらに、メタデータの流通を推進するため、国書データベースの書誌データを汎用的なスキーマに変換して出力する仕組みについて検討を開始しています。



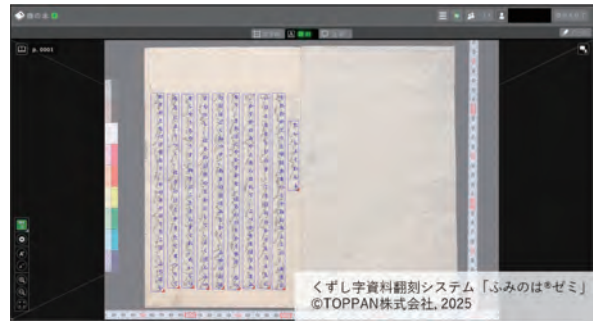
書誌作成画面の例

機械可読型全文テキストデータの整備

国文研DDHプロジェクト(→6ページ)では、令和6(2024)年度から令和15(2033)年度までの10年間に、撮影・収集した古典籍のデジタル画像をもとに、テキストデータ作成を行います。大量のデータ作成を効率的に行うため、試験的に商用翻刻システムも利用しています。



① OCR処理によるテキストデータ
270,000点(目標)



② 人手等による校正を経たテキストデータ
3,000点(目標)

作成したテキストデータの一部は、校訂本文・釈文・現代語訳・多言語訳等の作成や、標準的なメタデータの付与などにより活用できるよう整備し、公開する予定です。

海外との連携～国際的な広がり～

国書データベースでの海外所在古典籍の画像収載やデジタルアーカイブとの連携、コーニツキー版欧州所在日本古書総合目録の情報搭載など、これまでの取組を継承し、今後も海外所在資料情報の充実を積極的に進めていきます。

北米日本研究資料調整協議会(NCC)と協働で、北米に所在する日本語の古典籍資料のデジタル化を実施する“NIJL-NCC/CDDP Digitization Grant Program”は第2期を迎えました。採択機関でデジタル化された古典籍画像は、国書データベース上で公開していきます。

2025年には、日本資料専門家欧州協会(EAJRS)と覚書を締結しました。欧州における日本古典籍の活用を進めていきます。

また、データの充実のみならず、北米や欧州の日本関係司書との意見交換や、EAJRS年次大会における発表などの人的交流を通じて、国書データベースの国際化と利活用促進に取り組んでいます。



2026-2028 NIJL-NCC/CDDP Digitization Grant Program (NCC)
<https://guides.nccjapan.org/cddp/nijl-ncc/digitalgrant/2026-2028>



“NIJL-NCC/CDDP Digitization Grant Program” 第2期の Agreement 締結



海外向け書誌採録補助ツールの作成



EAJRS2025における発表
(ミシガン大学図書館と共同)



EAJRSとの覚書締結



NCC 共催ワークショップにおける発表

「国書データベース」は、国内外約700の機関や個人が所蔵する書誌約100万点、デジタル画像約30万点を無料で公開する世界最大級の日本古典籍データベースです。2024年には「近代書誌・近代画像データベース」を統合するなど、発展を続けています。



<https://kokusho.nijl.ac.jp>

国書データベースの特徴

Point 1 探しやすい

タイトルやキーワード検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキストなど、多彩な検索ができます。



Point 2 引用しやすい

各資料には、国際的識別子であるDOI(デジタルオブジェクト識別子)を付与しており、永続的なアクセスを保証しています。引用の際にも便利です。

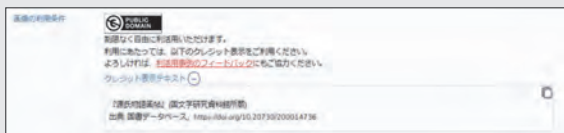


Point 3 活用しやすい

古典籍の画像は国際規格であるIIIF(トリプルアイエフ、International Image Interoperability Framework)に対応したビューアで表示され、異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易です。



+ さらに活用しやすく!



各画像には利用条件を表示しており、これに従うことで、安全な利活用が行えます。当館所蔵資料をはじめ「パブリックドメイン」で公開している画像は、商用・非商用や改変の有無、利用目的を問わず、資料掲載等のデータ利活用を自由に行うことができます。



詳細は、パンフレットをご参照下さい。

https://kokusho.nijl.ac.jp/page/kokusho-pamphlet_202309_web_JP.pdf



2025年度撮影実施機関

東北大学、福島大学、茨城県立歴史館、茨城大学、筑波大学、市川市(寄託資料)、宮内庁書陵部、国立国語研究所、実践女子大学、静嘉堂文庫、世田谷文学館、専修大学、東海大学、東京書籍株式会社附設教科書図書館東書文庫、東京大学、二松学舎大学、日本芸術文化振興会、野上記念法政大学能楽研究所、富山市立図書館、小浜市立図書館、真田宝物館、藤村記念館、静岡県立中央図書館、名古屋大学、石水博物館、京都市歴史資料館、京都大学、国際日本文化研究センター、瑞光寺、同志社大学、大阪大学、大阪府立中之島図書館、春日大社、手銭美術館、岡山大学、正宗文庫、光市文化センター、山口大学、総本山善通寺、宇和島伊達文化保存会、大洲市立図書館、九州大学、祐徳稲荷神社、諏訪神社、中津市歴史博物館、廣瀬資料館、鹿児島大学、大英図書館、オーバリン大学、カリフォルニア大学バークレー校、カンザス大学、プリティッシュコロンビア大学 (※2025年度撮影分は2026年度中に画像・書誌を公開予定。)

日本文学及びその関連領域研究のため、以下のデータベースを当館ウェブサイトで公開しています。

●国文学・アーカイブズ学論文データベース

<https://ronbun.nijl.ac.jp>

1888年(明治21)から現在に至る日本文学関係論文と、アーカイブズ学に関する国内研究文献を集約して提供しています。



●収蔵歴史アーカイブズデータベース

<https://archives.nijl.ac.jp>

文部省史料館(1951年開館)とそれを継承した国立史料館、当館によって収集・保管されてきた近世・近現代の古文書や記録類、モノ資料からなるアーカイブズを提供しています。



●在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ

<https://base1.nijl.ac.jp/~overseas/>

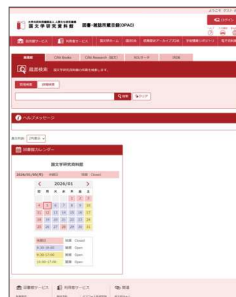
日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語(一部日本語も有)で提供しています。



●図書・雑誌所蔵目録(OPAC)

<https://opac.nijl.ac.jp>

当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌(逐次刊行物)の目録です。



●学術情報リポジトリ

<https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>

国立情報学研究所(NII)のJAIRO Cloudサービスを利用し、当館の研究成果等を公開しています。



国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらをさまざまな方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

1 調査・アーカイブズ調査収集

全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料を所蔵する機関に赴いて、書誌的事項を中心とした調査・研究を行っています。記録された調査カードは、画像作成や各種目録作成などに活用され、蓄積されたカードの情報は電子化を行い、学術リポジトリで公開しています。また、アーカイブズ情報資源化に向け、日本の近世・近代史料について、全国の史料の調査・収集を行っています。

研究成果として毎年『調査研究報告』を刊行しています。

これまでの調査・アーカイブズ収集件数

調査	国内	1,039箇所	426,226点
	海外	67箇所	16,367点
	計	1,106箇所	442,593点
アーカイブズ調査収集	国内	4箇所	7,679点



■ 2025年度調査箇所一覧

東北地区

弘前市立弘前図書館

会津若松市立会津図書館

関東地区

宮内庁書陵部

国立国語研究所

最明寺

武者小路実篤記念館

星槎大学真山青果コレクション

神奈川県立図書館山川菊栄コレクション

中部地区

舟津神社

近畿地区

春日大社

瑞光寺

中国・四国地区

鳥取県立博物館

手銭美術館

正宗文庫

光市文化センター

宇和島伊達文化保存会

大洲市立図書館

笠岡市立図書館(森田思軒自筆資料)

九州・沖縄地区

祐徳稲荷神社(中川文庫等)

■ 2025年度収集箇所一覧

アーカイブズ

江川文庫

真田宝物館

とみおかアーカイブ・ミュージアム

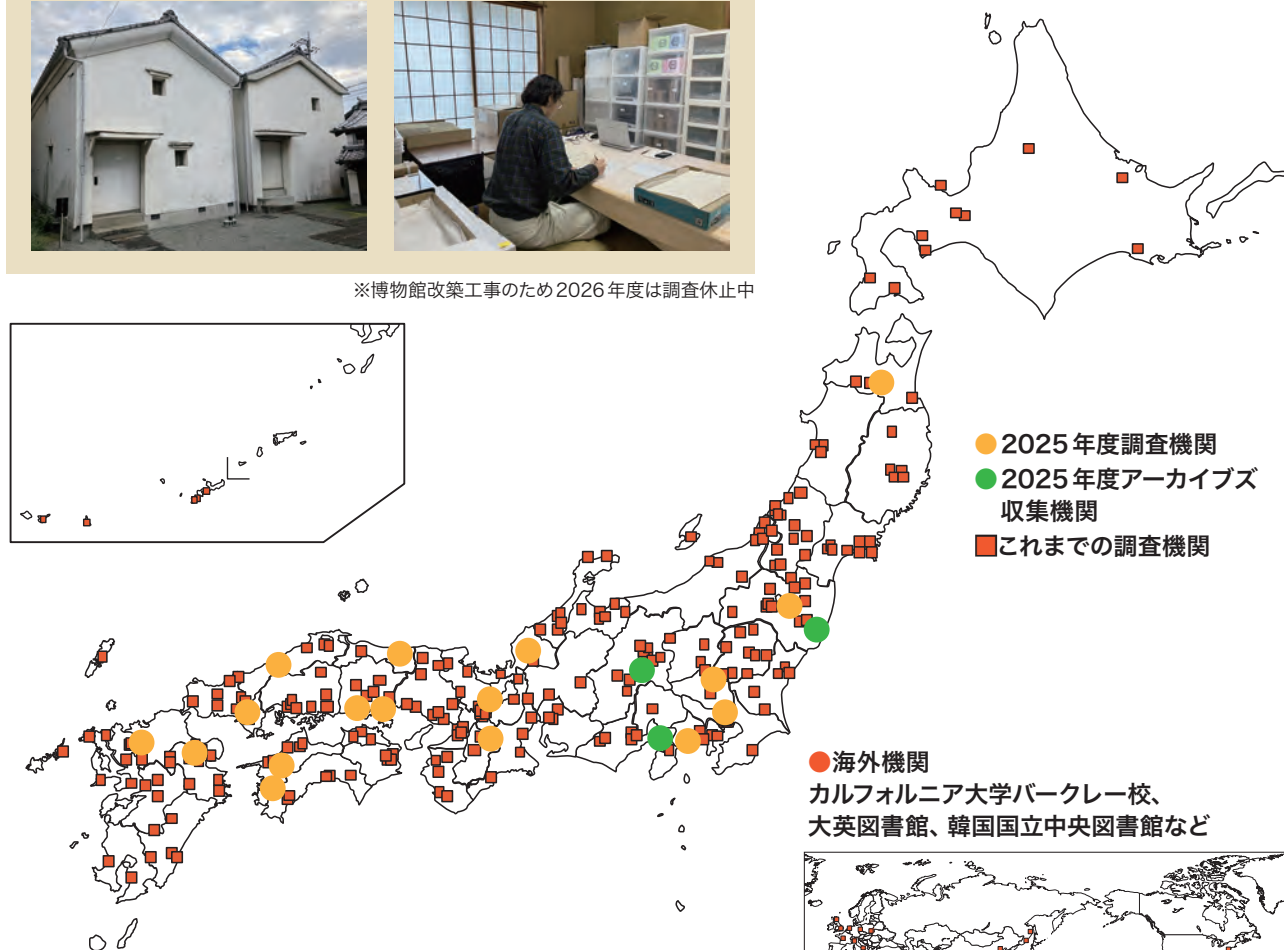
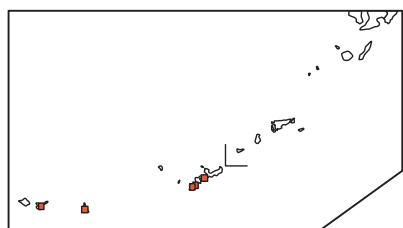
※所蔵者名敬称略

全国の所蔵機関での調査

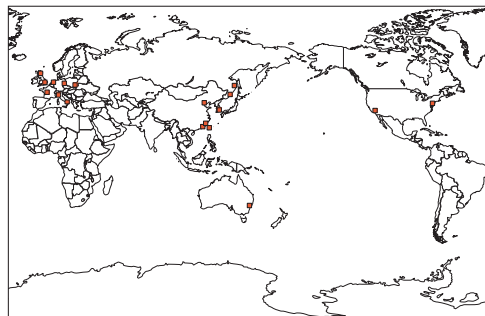
●宇和島伊達文化保存会【愛媛県】



※博物館改築工事のため2026年度は調査休止中



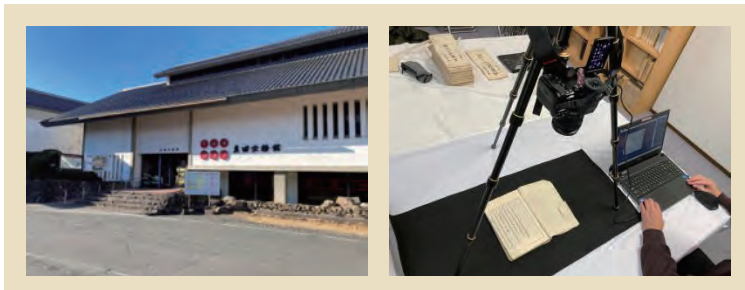
● 海外機関
カルフォルニア大学バークレー校、
大英図書館、韓国国立中央図書館など



●春日大社【奈良県】



●真田宝物館【長野県】



●手銭美術館【島根県】



2 資料利用

当館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・メール・FAXにより複写申込をすることができます。また、文書・メール・FAX等による参考質問も受け付けています。



図 書 館



複 写 機

当館の資料はお申込みいただければ、コイン式の複写機でコピー可能です。ただし、破損のため複写が難しい資料やマイクロフィルム資料などは職員が代行でコピーします。

利用案内

利用時間	開館時間	平日 9:30～18:00 土曜 9:30～17:00
	書庫資料 出納受付	平日 9:30～17:00 土曜 9:30～16:00
	複写受付	9:30～16:00
休 館 日		<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日、祝日・振替休日 ・年末年始(12月27日から1月5日) ・蔵書点検期間(2月) ・第4水曜日 ・夏季一斉休業日 ※その他、都合により臨時に休館する場合があります。掲示、当館ウェブサイトを確認してください。
サービス	閱 覧	マイクロ資料、和古書、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物 ※史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要。 土曜日は閲覧不可。
	複 写	電子複写(リーダープリンターによる複写も含む)
	撮 影	史料等、電子複写できない資料
	貸 出	紙焼き写真本の一夜貸しサービス(一部を除く)
	展示貸出	図書館、文書館、博物館等への貸出
	参考調査	所蔵調査・参考質問の受付、回答
	相互協力	図書館間の相互協力(ILL)による文献複写、資料貸出
問合せ	電 話	050-5533-2926 学術資料係
	E-mail	etsuran@nijl.ac.jp
	F A X	042-526-8607

所蔵資料

資料種別		点数等	冊数等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	195,097点
		歴史	202件
	紙焼写真本	日本文学	—
		歴史	—
図書	和古書	21,737点	69,391冊
	活字本・影印本等	122,298件	209,789冊
	逐次刊行物	9,670誌	—
	マイクロフィッシュ	16,667点	57,358枚
史料		512件	約520,000点
寄託	日本文学	14件	10,268冊
	歴史	17件	6,847点

代表的な所蔵資料

日本文学関係資料

【貴重書】

春日懐紙(重要文化財)、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか244点

【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション(初雁文庫)、作家中村真一郎旧蔵の江戸明治の漢詩文集のコレクション(日本漢詩文集コレクション)、『徒然草』ほかのコレクション(高乗勲文庫)、『新古今和歌集』を中心としたコレクション(懐風弄月文庫)、田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類(田安德川家資料(田藩文庫ほか))、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物及び文書・記録類(鵜飼文庫)、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類(山鹿文庫)、『伊勢物語』とその関連書のコレクション(鉄心斎文庫)ほか27件

【寄託資料】

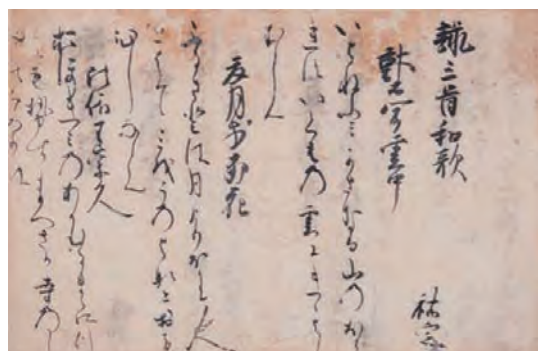
金子元臣旧蔵書6点、坂田穂好氏古筆切コレクション156点、増田コレクション6,690枚50箱ほか14件

歴史関係資料

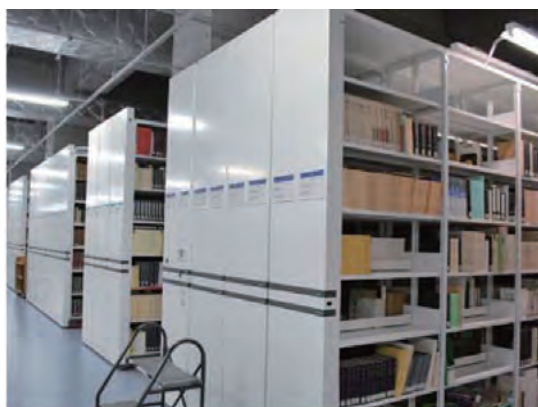
所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅しています。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めますが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書があります。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書があります。



春日懐紙(当館所蔵)



書庫

3 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、さまざまなイベントを開催しています。

■ 展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

2026年度展示予定

通常展示「和書のさまざま」 2026年5月8日(金)～8月4日(火)

展 示「江戸書画万華鏡
—北野克書画コレクションの世界—(仮)」
2026年10月1日(木)～11月27日(金)

通常展示「書物で見る 日本古典文学史」
2027年1月22日(金)～3月18日(木)



展示室

特設コーナー

展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、特設コーナーを設け、当館所蔵の資料等を展示しています。

電子展示室「書物で見る 日本古典文学史」、「和書のさまざま」

電子展示室

<https://www.nijl.ac.jp/kotendigilab/webexhibit/>



■ 講演会等

(1) アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、当館において2026年7月21日(火)～8月7日(金)、8月17日(月)～9月4日(金)の計6週間、短期コースは秋田県公文書館及び秋田県生涯学習センターにおいて11月9日(月)～11月14日(土)に開催を予定しています。



アーカイブズ・カレッジ短期コース

(2) 日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

2026年度は7月14日(火)～17日(金)の4日間の開催を予定しています。



日本古典籍講習会

(3) 「古典の日」講演会

11月1日の「古典の日」にあわせて記念講演会を開催しています。「古典の日」は、『源氏物語』の最古の記録がある寛弘5年11月1日に由来し、2012年に制定されたものです。

古典に親しんでいただく機会として、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。日時等の詳細は当館 Web サイトをご覧ください。



2025年度「古典の日」チラシ

多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」

当館では、多摩信用金庫と協定を締結し、多摩地域における学術・文化の発展に関する事業を継続的に実施するために、当館を中心に企業、自治体、大学等各種団体で構成する多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」を2018年度に設立しました。

本事業では、多摩地域の学術・文化に関する講座、講演会の開催、所蔵資料、データベース等を活用した各団体との連携協力、産学連携の推進を実施していきます。



「ないじえる芸術共創ラボ -アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」

当館では2017年10月より、「ないじえる芸術共創ラボ -アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」を実施しています。本事業は、当館に所蔵されている豊富な古典籍に、アーティストや、日本語を母国語としない翻訳家に触れていただき、研究者との創作ワークショップをとおして、新たな文化芸術的価値を共創しようというものです。



大学支援「国文研でゼミを」・探究学習セミナー

大学支援「国文研でゼミを」では学部・大学院の日本文学・日本史のゼミや講義を、当館の豊富な所蔵資料を手に取りながら行えるプログラムを実施しています。近年では日本古典籍のデータベース化が進み、その画像もかなり精細となってきましたが、原本には紙の質感や大きさ等、実物でないと分からない情報がたくさんあります。探究学習セミナーでは原典資料に自分の目で見て触れる経験を通じて、生徒に日本文学への関心を持ってもらいます。どうぞ積極的にご利用ください。申込みの詳細は当館Webサイトをご覧ください。

出版物・刊行物

- ・紙の上の展覧会—国文研 千年の旅（中央公論新社）2025年9月刊行
- ・文部科学教育通信(ジ アース 教育新社)にて「国文学研究資料館——古典への誘い」を2025年4月から2026年3月まで連載

その他、「国文研ニュース」、国文研DDHプロジェクトニュースレター「ふみ」、「紀要(文学研究篇、アーカイブズ研究篇)」等を発行しています。



Webサイト・SNS

当館Webサイト、SNSを通じて、催し物等の広報を行っています。



Webサイト
<https://www.nijl.ac.jp/>



X
<https://x.com/nijlkokubunken>



Facebook
<https://www.facebook.com/nijlkokubunken2/>



YouTube
https://www.youtube.com/channel/UComv2mV_IJKz9H690ST-7w

4 国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野と手法を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な課題です。このような認識のもとに、当館では国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、国内外における研究集会やシンポジウム、日本古典籍を研究資源としたセミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

また複数の機関が限られた資源を共有し、相互の長所・短所を補完できる場として、日本古典籍研究に特化した「日本古典籍研究国際コンソーシアム(Global Consortium for Japanese Textual Scholarship)」を、2020年11月1日付けで国内外の参加機関と共に任意団体として設立しました。事務局は当館が担当しています。参加機関数は、2026年3月末現在で83機関(国内41機関、国外42機関)です。<https://kotenseki.org/>

■ 学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容は、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究、大学院生等の短期研修受入れなどの形で実施しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- 北京外国語大学北京日本学研究中心(中華人民共和国)
- 高麗大学校グローバル日本研究院(大韓民国)
- 檀国大学校東アジア人文融複合研究所(大韓民国)
- コロンビア大学東アジア言語文化学部(アメリカ合衆国)
- カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館(アメリカ合衆国)
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科(アメリカ合衆国)
- スミソニアン協会(国立アジア美術館)(アメリカ合衆国)
- カンザス大学(アメリカ合衆国)
- ブリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科(カナダ)
- 北米日本研究資料調整協議会(北米)
- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス共和国)
- 高等研究実習院(フランス共和国)
- アルガス欧州日本学研究中心(フランス共和国)
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科(イタリア共和国)
- ナポリ大学「オリエンターレ」(イタリア共和国)
- フィレンツェ大学教育・語学・国際文化・文学・心理学部(イタリア共和国)
- サピエンツァローマ大学イタリア東洋研究学科(イタリア共和国)
- ライデン大学人文学部(オランダ王国)
- ベルリン国立図書館(ドイツ連邦共和国)
- ハイデルベルク大学日本学科(ドイツ連邦共和国)
- ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン言語学・文化学・芸術学部(ドイツ連邦共和国)
- バチカン図書館(バチカン市国)
- 大英図書館理事会(イギリス)
- アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター
- 国際交流基金

■ 海外研究者との交流(外国人研究員・外来研究員)

日本文学研究の国際化を促進するために、海外において第一線で活躍する日本文学及びその周辺領域の研究者を外来研究員等として受け入れ、学術資料の利用及び人材交流の場として当館を提供しています。

国際日本文学研究集会

本研究集会は、広い視野から日本文学研究の進展を図り、国際的な研究交流を深めるため、当館が開館した1977年から継続して開催しています。

国内外を問わず、特に次世代研究者の発表を歓迎します。毎年5月に開催し、前年8月～11月中旬に研究発表者の募集をしています。発表者の選考は、当館国際連携部の専門部会である「国際日本文学研究集会専門部会(館外委員含む)」が行い、研究集会の運営も行っています。

2026年度の第49回は、対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催します。

●第49回 国際日本文学研究集会

日程：2026年5月16日(土)～5月17日(日)

会場：当館大会議室及びオンライン

(Zoom ミーティング及び YouTube ライブ配信予定)

●第48回 国際日本文学研究集会

日程：2025年5月10日(土)～5月11日(日)

会場：当館大会議室及びオンライン

概要：研究発表者15名(うち若手研究者14名)、ポスター発表者2名(うち若手研究者1名)

参加者：208名(2日間延べ)



第49回 国際日本文学研究集会ポスター

文献資料ワークショップ

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(IUC)と共催で、次世代研究者を対象に、毎年2回、原則対面で開催しています。日本古典籍を資源とする研究展開の支援を主たる目的とし、古典籍の取り扱い方の概説、一次資料の調査・利用方法の説明、当館のデータベースやその他の資源の活用方法等について、実践的なガイダンスと有益な情報が共有される場を設けています。

●第14回 2026年2月20日(金)

会場：当館オリエンテーション室及びオンライン

参加者：64名

●第13回 2025年11月5日(水)

会場：当館オリエンテーション室及びオンライン

参加者：49名



第13回 文献資料ワークショップチラシ

日本古典籍セミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを開催しています。

●第14回 2027年3月(予定)

会場：オンライン

共催：北京外国語大学北京日本学研究中心



第13回 日本古典籍セミナーチラシ

■ 特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、1979年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、1998年度からは特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

日本国内の国公立大学大学院の修士課程又は博士課程に在学し、日本文学、歴史学及び関連領域の分野を専攻する者を「特別共同利用研究員」として受入れ、当館において研究に従事し、併せて必要な研究指導を行っています。受入人員は10名程度とし、受入期間は、原則として各年4月から翌年3月までの1年間です。

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
受入人数	6人	4人	6人	4人	2人	4人

■ 共同研究への参加について

研究組織は「研究代表者」と「研究分担者」の6～9名程度で構成しますが、その際、若手研究者(39歳未満。博士後期課程に在籍する大学院生も可。)を30%以上参画させることとしています。

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
受入人数	17人	21人	73人	82人	96人	76人

■ プロジェクト研究員について

当館における特定の研究プロジェクトに係る経費により期間を定めて雇用される者で、当該研究プロジェクトに従事している職員。学術資料部では、若手研究者の支援の一環として、セミナーの開催、典籍籍の目録作成などを担うプロジェクト研究員を雇用しています。

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
受入人数	13人	12人	8人	5人	4人	2人

■ PD受入れについて

独立行政法人日本学術振興会が実施している特別研究員-PDの受入れにあたり、令和5(2023)年度より「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業(以下「雇用支援事業」という。)」を実施しており、当館は「特別研究員-PD等の雇用制度導入機関」に登録されており、新規採用者は原則全員雇用されることとなります。

当館では2020年度に2名、2023年度に1名の受入れを行いました。

■ 若手研究者向けイベント

- ・国際日本文学研究集会(27ページ)
- ・文献資料ワークショップ(27ページ)
- ・日本古典籍講習会

若手研究者を対象とし、日本古典籍書誌学の初歩的知識の修得を目的に研修を行っています。なお、2025年度の研修プログラムは第23回日本古典籍講習会の第1日と第2日をもって実施しました。

■ 日本古典文学学術賞(国文学研究資料館賛助会主催)

「日本古典文学学術賞」は、財団法人日本古典文学会が主催していた「日本古典文学会賞」を継承し、若手日本古典文学研究者の奨励と援助を目的として、国文学研究資料館賛助会に設置されました。

受賞対象者は、対象となる業績の公表時に40歳未満である研究者です(3名以内)。第18回「日本古典文学学術賞」につきましては、2024年1月から12月までの業績(著書)を対象とし、選考委員会における選考の結果、該当する受賞者はありませんでした。

■ 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻 日本文学研究コース

日本文学研究コースは、当館を基盤機関とし、日本文学の新たな発展を担う人材を養成します。具体的には、文化資源のうち文献を主とした一次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。

本コースは、博士後期課程のみから成り、コースに所属する学生は当館において学修・研究活動を行います。

● 在籍学生数 2026年4月1日現在

入学定員	1年次	2年次	3年次	合計
2名程度	0	1	3	4

● 直近5年間の年度別学位取得者数 ※論文博士を含む

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
3	2	0	2	1

● 修了生の進路

青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湘北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、兵庫教育大学、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育 等

■ 日本文学研究コースの特徴

● 複数指導体制

19名の教員が広範な教育研究分野から学生をサポートしています。学生の研究課題に応じた指導体制を築くため、学生1人につき主任指導教員1名、副指導教員2名を定め、多角的な観点からきめ細かい指導を行っています。

● 充実した教育研究環境

当館の膨大な資料を活用して研究を行うことができます。また、院生室、講義室、院生用の図書室、談話室などコースの学生のための施設が充実しています。

● 経済的支援

国内外の現地調査、学会発表・聴講などの研究活動の旅費等の支援やリサーチ・アシスタント(RA)への積極的な雇用など、経済的な支援が充実しており、奨学金などと組み合わせることにより研究に専念することができます。

また、館内での資料複写が無料です(上限あり)。希望する図書の購入と院生図書室への配架も行っています。

先端学術院 20コース	総研大が基盤とする研究機関
人類文化研究	国立民族学博物館 National Museum of Ethnology
国際日本研究	国際日本文化研究センター International Research Center for Japanese Studies
日本歴史研究	国立歴史民俗博物館 National Museum of Japanese History
日本文学研究	国文学研究資料館 National Institute of Japanese Literature
日本語言語科学	国立国語研究所 National Institute for Japanese Language and Linguistics
情報学	国立情報学研究所 National Institute of Informatics
統計科学	統計数理研究所 The Institute of Statistical Mathematics
素粒子原子核	素粒子原子核研究所 Institute of Particle and Nuclear Studies
加速器科学	加速器研究施設・共通基盤研究施設 Accelerator Laboratory / Applied Research Laboratory
天文科学	国立天文台 National Astronomical Observatory of Japan
核融合科学	核融合科学研究所 National Institute for Fusion Science
宇宙科学	宇宙科学研究所 Institute of Space and Astronautical Science
分子科学	分子科学研究所 Institute for Molecular Science
物質構造科学	物質構造科学研究所 Institute of Materials Structure Science
総合地球環境学	総合地球環境学研究所 Research Institute for Humanity and Nature
極域科学	国立極地研究所 National Institute of Polar Research
基礎生物学	基礎生物学研究所 National Institute for Basic Biology
生理科学	生理学研究所 National Institute for Physiological Sciences
遺伝学	国立遺伝学研究所 National Institute of Genetics
総合進化科学	統合進化科学研究センター Research Center for Integrative Evolutionary Science

*組織改組に伴い、2023年4月から「文化科学研究科日本文学研究専攻」から「先端学術院日本文学研究コース」に変わりました。



研究基礎論の講義風景

研究者一覧 (2026年4月1日現在)

館長

氏名	研究内容
渡部 泰明 WATANABE Yasuaki	和歌史の研究

研究部

氏名	職名	研究内容
入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi	教授 副館長(企画調整担当)	近世文学研究
岡崎 真紀子 OKAZAKI Makiko	教授 副館長(研究担当)	中古・中世文学、和歌文学の研究
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	教授 (研究主幹・館長補佐)	日本近世文学、特に小説史の研究
ダヴァン ディディエ DAVIN Didier	教授 (研究主幹)	中世仏教と文学
中西 智子 NAKANISHI Satoko	教授 (研究主幹)	平安時代文学、物語文学
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	教授 (研究主幹) *日本文学研究コース長 (総研大)	福島県原発事故被災地域の歴史資料保全と大字誌編纂
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	教授 (研究主幹)	19世紀日本文学研究
神作 研一 KANSAKU Ken'ichi	教授	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
齋藤 真麻理 SAITO Maori	教授	中世文学の研究、特に室町の文学と芸術
藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko	教授	日本近世・幕末維新期の政治文化の研究、書籍史料論の構築
大山 敬三 OYAMA Keizo	特任教授	情報学、情報検索、特に研究用データセットの構築と共同利用に関する研究
永崎 研宣 NAGASAKI Kiyonori	客員教授	人文学情報のデジタル化に関わる研究(特に、データの公開、人文情報学若手人材育成に関する事)
藤田 悟 FUJITA Satoru	客員教授	古典籍のくずし字認識と画像検索の研究
太田 尚宏 OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
川上 一 KAWAKAMI Hajime	准教授	日本中世文学、特に室町期和歌文学
菊池 信彦 KIKUCHI Nobuhiko	准教授	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
栗原 悠 KURIHARA Yutaka	准教授	日本近代文学における幕末・明治維新期の表象
高尾 祐太 TAKAO Yuta	准教授	中世文学、特に文芸と知識基盤の研究
多田 蔵人 TADA Kurahito	准教授	日本近代文学における「引用」の研究
西口 正隆 NISHIGUCHI Masataka	准教授	日本近世・近代の交通・流通史研究
守岡 知彦 MORIOKA Tomohiko	准教授	漢字情報学、文字オントロジーに基づく文字処理、一般キャラクター論
押海 圭一 OSHIUMI Keiichi	特任准教授	研究評価、特に人文系研究評価、政策研究
松原 哲子 MATSUBARA Noriko	特任准教授	古典籍を対象とするマテリアル分析・18世紀の草双紙を中心とする日本文学の研究
江戸 英雄 EDO Hideo	助教	古代後期・中世前期の国文学の研究
ノット ジェフリー KNOTT Jeffrey	助教	中世における古典学・古典文学の受容史研究

氏名	職名	研究内容
河田 翔子 KAWATA Shoko	特任助教	中世説話文学、特に古記録・古注釈にみえる説話的要素の研究
竹内 綾乃 TAKEUCHI Ayano	特任助教	主に平安文学を対象としたデータ構築、拡張、データマイニング
中山 陽介 NAKAYAMA Yosuke	特任助教	平仮名の成立と展開の研究
大和 あすか YAMATO Asuka	特任助教	近世資料の色材を中心とした材料分析
島田 遼 SHIMADA Ryo	特別研究員(PD)	中古・中世文学、特に和歌表現の研究
安井 海洋 YASUI Mihiro	特別研究員(PD)	日本近代文学の書物における形態と内容の連関

■ 基幹事業センター

氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名
入口 敦志	センター長(併任)				
木越 俊介	副センター長(併任)				
基幹事業センター学術資料部		基幹事業センター国際連携部		基幹事業センター社会連携部	
木越 俊介	部長(併任)	ダヴァン デイディエ	部長(併任)	中西 智子	部長(併任)
多田 蔵人	副部長(併任)	山本 和明	副部長(併任)	入口 敦志	副部長(併任)
岡崎 真紀子	教授(併任)	太田 尚宏	准教授(併任)	西村 慎太郎	教授(併任)
神作 研一	教授(併任)	栗原 悠	准教授(併任)	高尾 祐太	准教授(併任)
齋藤 真麻理	教授(併任)	ノット ジェフリー	助教(併任)	西口 正隆	准教授(併任)
藤實 久美子	教授(併任)	劉 娟	機関研究員	守岡 知彦	准教授(併任)
川上 一	准教授(併任)			江戸 英雄	助教(併任)
菊池 信彦	准教授(併任)			河田 翔子	特任助教(併任)
城所 喬男	プロジェクト研究員				

■ 古典籍データ駆動研究センター

氏名	職名
大山 敬三	センター長(併任)
神作 研一	副センター長(併任)
菊池 信彦	副センター長(併任)
木越 俊介	教授(併任)
西村 慎太郎	教授(併任)
山本 和明	教授(併任)
藤田 悟	客員教授(併任)
西口 正隆	准教授(併任)
守岡 知彦	准教授(併任)
松原 哲子	特任准教授(併任)
竹内 綾乃	特任助教(併任)
大和 あすか	特任助教(併任)

■ 基盤データセンター

氏名	職名
山本 和明	センター長(併任)
岡崎 真紀子	副センター長(併任)
木越 俊介	教授(併任)
永崎 研宣	客員教授(併任)
川上 一	准教授(併任)
菊池 信彦	准教授(併任)
多田 蔵人	准教授(併任)
守岡 知彦	准教授(併任)
竹内 綾乃	特任助教(併任)
金子 英和	機関研究員

参考データ

職員・予算・施設(2026年度)

職員	(単位：人)	予算	(単位：千円)	施設	(単位：m ²)
館長	1	収入	1,350,465	建物面積 専有面積	13,002
教授	10	運営費交付金	1,344,252	上記の内	
准教授	8	自己収入	6,213	閲覧室	1,584
助教	2	支出	1,350,465	書庫・収蔵庫	2,416
特任教授	1	教育研究経費	814,433	展示室	355
特任准教授	2	一般管理費	536,032		
特任助教	2				
事務系職員	43				
合計	69				

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)(2026年度)

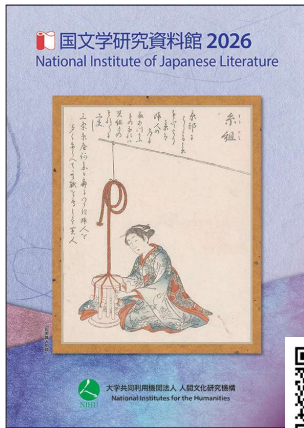
研究種目	審査区分	研究代表者	研究課題名	研究期間
基盤研究(A)	一般	入口 敦志	日本文学及びその関連分野のデータ駆動のためのテキスト形成の総合研究	2022~2026
基盤研究(B)	一般	齋藤 真麻理	画題と画論および粉本の生成受容圏から見た中近世文芸の表象と展開に関する総合的研究	2023~2026
基盤研究(B)	一般	大和 あすか	近世日本における彩色文化史の解明を目的とした多色摺木版画の色材研究	2023~2027
基盤研究(B)	一般	神作 研一	近世絵入り本の基礎的研究	2024~2027
基盤研究(B)	一般	渡辺 浩一	近世・近代における〈連関〉の環境史研究の創出	2024~2028
基盤研究(B)	一般	太田 尚宏	近世における森林資源コントロールに関する基礎的研究—尾張藩を中心に—	2024~2028
基盤研究(B)	一般	岡崎 真紀子	春日大社所蔵和歌関係資料についての総合的研究	2025~2028
基盤研究(B)	一般	木越 俊介	19世紀大阪の著作権記録「株帳」をめぐる総合的研究	2025~2029
基盤研究(B)	一般	藤實 久美子	維新政権期の政府機関と府藩県刊行官版日誌の学際的総合研究とオープンデータの推進	2025~2029
基盤研究(C)	一般	中西 智子	藤原道長家における『源氏物語』の長篇化に関する研究	2023~2026
基盤研究(C)	一般	押海 圭一	研究評価システムが人文系研究者に与える影響に関する研究	2023~2026
基盤研究(C)	一般	山本 和明	古典籍をめぐる幕末明治期における人的交流に関する発展的研究	2024~2027
基盤研究(C)	一般	松原 哲子	マテリアル分析で解明する18・19世紀の後印を含めた地本の展開と草双紙史再定義	2024~2027
基盤研究(C)	一般	小林 健二	江戸時代中・後期から明治時代にわたる能狂言絵の研究	2025~2028
基盤研究(C)	一般	多田 蔵人	20世紀前半期日本語文学における文体的多様性の史的研究	2026~2028
基盤研究(C)	一般	堀内 暢行	薬害事件関連記録の個人情報と利用の並立方法確立に関する研究	2026~2028
若手研究		竹内 綾乃	データ分析から解き明かす平安文学における話法の研究—自由間接話法を中心に—	2024~2026
若手研究		菊池 信彦	現代パルセロナにおける本の日とサン・ジョルディの日の「接続」とそのグローバル展開	2025~2029
若手研究		川上 一	室町時代公武歌会資料の基礎的研究	2025~2028
若手研究		河田 翔子	説話的要素に着目した中世古今注の成立と享受に関する基礎的研究	2025~2029
若手研究		栗原 悠	戦前期日本の文学テキストにおける幕末-明治維新期思想の受容と表象の研究	2026~2030
若手研究		ノット・ジェフリー	十六世紀源氏学における変革の研究—注釈の長編化・集大成化・大衆化の実態とその意味	2026~2030
学術変革領域研究(A)(公募研究)		菊池 信彦	遠隔協働型デジタルパブリックヒストリーによる祭典空間史研究	2026~2027
研究成果公開促進費(データベース)		木越 俊介	国文学・アーカイブズ学論文データベース	2025~2029
研究成果公開促進費(データベース)		山本 和明	国書データベース	2026
研究成果公開促進費(学術図書)		山本 和明	十九世紀出版文化攷究	2026
研究成果公開促進費(学術図書)		松原 哲子	草双紙史の再構築 —『菊寿草』序文を問い直す—	2026
特別研究員奨励費		島田 遼	平安鎌倉期の和歌における字音語表現の基礎的研究	2026~2028
特別研究員奨励費		安井 海洋	近代出版と文学・視覚表現の普及との相関についての史的研究	2026~2028

(2026年4月1日現在)

主要出版物一覧

当館の紹介など

国文学研究資料館概要



国文研ニュース



国文研DDH プロジェクト ニュースレター「ふみ」

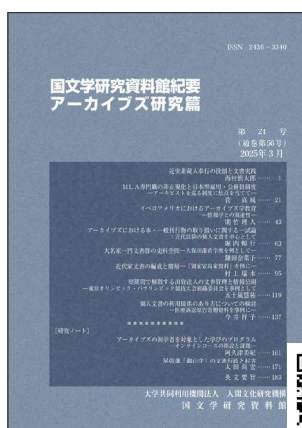


研究成果

国文学研究資料館紀要 文学研究篇 (査読あり)



国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇 (査読あり)

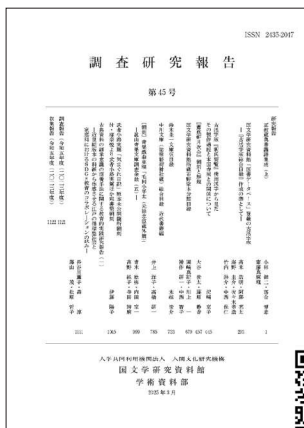


共同研究成果報告書



事業関係

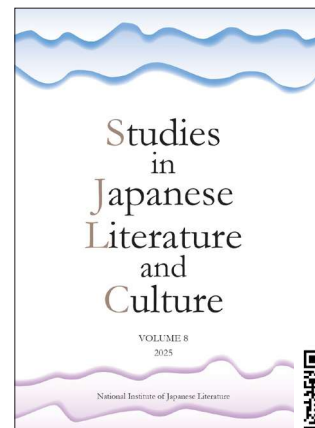
調査研究報告 (査読あり)



展示図録

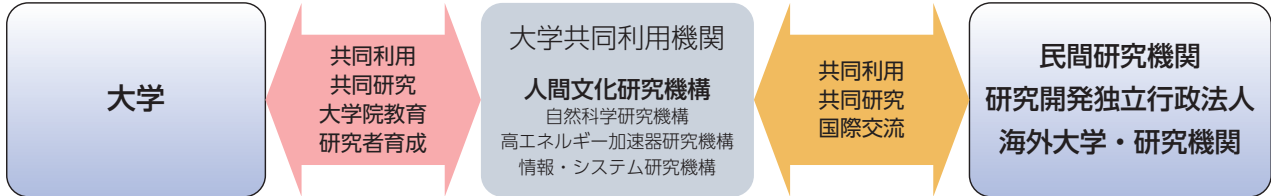


Studies in Japanese Literature and Culture



大学共同利用機関とは

各々の研究分野における我が国の中核的研究拠点(COE)として、個別の大学では維持が困難な大規模な施設設備や膨大な資料・情報等を国内外の大学や研究機関等の研究者に提供し、それを通じて効果的な共同研究を実施する研究機関です。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

人間文化研究機構(人文機構/NICHU)は、人間文化研究を推進する6つの大学共同利用機関を支え、さらなる研究の発展を図る法人として、2004年に設置されました。現在の構成機関は、以下の6機関です。

- ・ 国立歴史民俗博物館(歴博)
- ・ 国文学研究資料館(国文研)
- ・ 国立国語研究所(国語研)
- ・ 国際日本文化研究センター(日文研)
- ・ 総合地球環境学研究所(地球研)
- ・ 国立民族学博物館(民博)

6つの機関は、それぞれの研究分野における国際的な中核研究拠点として、国内外の大学等研究機関、研究者と連携して、基盤的研究及び学際的研究を推進しています。人文機構は、これら6つの機関同士、あるいは機構内の機関と機構外の大学等とをつなぎ、研究資源の構築、実証的研究、理論的研究を進めるとともに、自然科学との連携を含む新しい研究領域の創成を目指して、人間文化に関する総合的な学術研究とその発信に取り組んでいます。



人文機構のミッションとビジョン

【ミッション】

人文機構は、人間文化研究に関する唯一の大学共同利用機関法人として、人間とその文化を総合的に探究し、その探求を通じて、真の豊かさを問い、自然と人間の調和を図り、人類の存続と共生に貢献することをミッションとしています。

【ビジョン】

ミッションの実現に向けて、法人第4期には、人間文化の多様性や社会の動態を踏まえて、現代社会のさまざまな課題を追究し、その解決を志向するとともに、人と自然が調和し、科学技術と人間性が共存する未来社会の実現のための指針となるべき新しい価値観や人文知を提示することを目標としています。その達成のために、社会に開かれた新たな知の形成を目指して、2022年4月に人間文化研究創発センターを設置しました。センターでは、国内外のさまざまな人々との共創による開かれた人間文化研究という理念のもと、デジタル技術を用いた研究基盤を構築するとともに、その基盤を活用した共同研究を推進し、さらに社会のさまざまな人々との交流と協働の場としての「知のフォーラム」の形成、国際的なネットワーク形成に取り組んでいます。

開かれた人間文化研究をめざす「人間文化研究創発センター」

人間文化研究創発センターでは、人文機構のミッションとビジョンに基づき、「基幹研究プロジェクト」と「共創先導プロジェクト」を推進しています。

■ 基幹研究プロジェクト

機構の根幹をなす人間文化に関する基盤的・学際的研究として、3類型11の研究プロジェクトを実施し、学術ネットワークの拡大や新分野創出等によって、大学共同利用機関としての使命の実現を図っています。

【機関拠点型】 人文機構の6機関が主体となって実施するプロジェクト	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究(歴博)
	データ駆動による課題解決型人文学の創成(国文研)
	開かれた言語資源による日本語の実証的・応用的研究(国語研)
	「国際日本研究」コンソーシアムのグローバルな新展開―「国際日本研究」の先導と開拓―(日文研)
	自然・文化複合による現代文明の再構築と地球環境問題の解決へ向けた実践(地球研)
	フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文科学研究の推進(民博)
【広領域連携型】 機構内の複数の機関が連携して実施するプロジェクト	横断的・融合的な地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して(主導機関：歴博・民博)
	人新世に至る、モノを通じた自然と人間の相互作用に関する研究(主導機関：地球研)
	異分野融合による総合書物学の拡張的研究(主導機関：国文研)
【ネットワーク型】 他の大学や研究機関と連携して実施するプロジェクト	グローバル地域研究推進事業(主導機関：民博)
	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業(主導機関：歴博)

■ 共創先導プロジェクト

各機関及び国内外の大学等研究機関が連携して、研究資源や研究成果の共有化及び地域との共創・協働等とおして社会に貢献するプロジェクトです。これらとおして、「社会共創」「デジタル化」「国際共創」という3つの研究展開を図ります。

3つの研究展開	共創促進研究	共創促進事業
	機構内外の多様な組織や人々との共創による共同研究を推進し、3つの研究展開を促進します。	3つの研究展開を加速化させるための事業を実施し、機構内機関及び機構外大学等研究機関の研究の高度化・創発を図ります。
社会共創	コミュニケーション共生科学の創成	知の循環促進事業
デジタル化	学術知デジタルライブラリの構築	デジタル・ヒューマニティーズ(DH)促進事業
国際共創	日本関連在外資料調査研究	国際連携促進事業

【TOPICS】

ブリル社と「NIHU Studies in the Humanities」と題するオープンアクセス書籍シリーズの刊行を開始しました。

人文機構はブリル社と「NIHU Studies in the Humanities」と題するオープンアクセス書籍シリーズの刊行を開始するという合意を、令和6年6月に締結しました。この新たなシリーズは、NIHUの6つの機関のいずれかに所属する研究者による研究プロジェクトの成果を、英文オープンアクセスの単行本および論文集等として刊行するものです。





「彩画職人部類」
 灘沙屋龜求撰
 玉樹軒橋岷江画

交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分 ※無料駐車場あり



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

<https://www.nijl.ac.jp/>

National Institute of Japanese Literature (NIJL)
National Institutes for the Humanities

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan
 TEL: +81-50-5533-2900

